

## 1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760～5820mのトラフが南西諸島付近にあって、前線が東シナ海から小笠原諸島付近へのびている。南鳥島近海の高気圧の縁をまわる下層暖湿気が前線に向かって流れ込み、南大東島周辺では、雷を伴い激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5580m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が日本海を東北東進。前線が北日本にのびており、前線近傍や暖域では活発に発雷。また、前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

- ③ 衛星画像では、華北付近から②の低気圧周辺にかけて黄砂が見られる。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

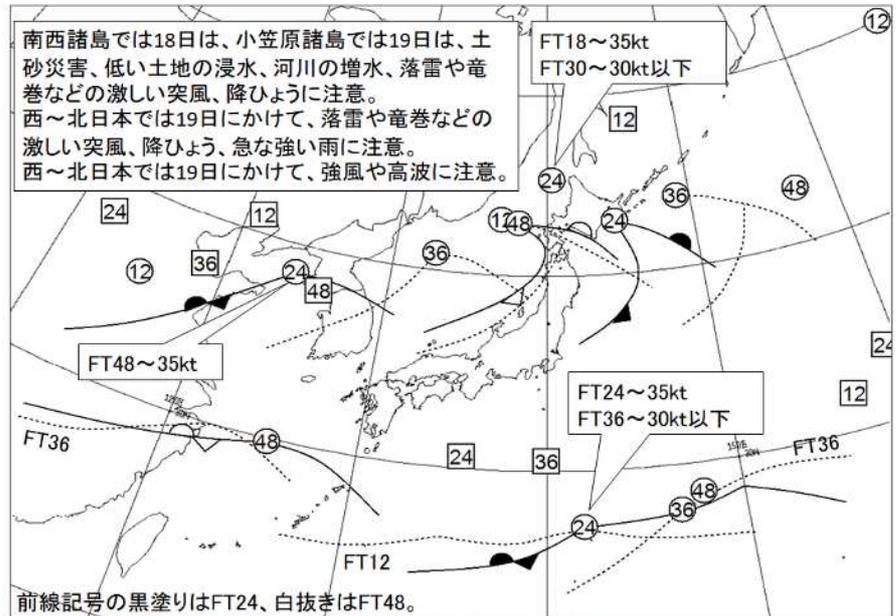
- ① 1項①の前線に向かって850hPa相当温位336K以上の暖湿気が流入して大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では18日は、小笠原諸島では19日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の低気圧は、19日にかけて日本海を東北東進し、前線が西～北日本を通過する。低気圧に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる。西日本は18日は、東～北日本では19日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ③ 2項②の前線や低気圧の周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西～北日本では19日にかけて、強風や高波に注意。
- ④ 2項②の前線や低気圧に向かい下層に暖気が流入し、西～北日本では19日にかけて最高気温が25℃以上の夏日、東日本太平洋側では19日は30℃以上の真夏日になる所がある。体調管理に留意。また、気温上昇と降雨のため、東～北日本の積雪の多い所では19日にかけて、なだれや融雪に注意。
- ⑤ 20日は、東シナ海と日本海をそれぞれ進む上空のトラフに対応し、前線を伴う低気圧が南西諸島付近と北海道をそれぞれ通過する。低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島と北日本を中心に、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風、降ひょう、強風、高波に注意。
- ⑥ 西～東日本では、19日は黄砂が飛来する可能性に留意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：小笠原120mm。

- ② 波浪(明日まで)：中国・北陸・東北・北海道3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図